

今号のトピックス ■2名の専門家のご参加 ■照山先生の研究 ■テキスト刊行報告

## 2名の専門家のご参加

8、9月に複数名の方が加入下さいました。その中に2名の専門家がおられますので紹介します

### 睡眠教育のエキスパート宮崎総一郎先生

先生は、以前滋賀医科大学「睡眠学講座」におられ、現在中部大学生命科学研究所特任教授で、日本睡眠教育機構 理事長を努めておられます。

先生には、THInet 内容・教材開発委員会の「第3分野・睡眠問題」の監修者を引き受けていただきました。すでに、第3回研修会(1日)の教材の監修をお願いし、先生のデータ・図・表を多数提供していただきました。

睡眠分野は、前成田弘子チーフの教材成果を踏まえ、宮崎論を反映させ、新内山陽子チーフ(青森県特別支援学校養護教諭)により大幅に改善されました。宮崎先生をお迎えできたのも内山チーフの働きかけでした。

宮崎先生の業績は、<https://jses.me/日本睡眠教育機構について/> をご覧下さい。

### 新鋭のネット依存研究者 照山絢子先生

先生は、筑波大学図書館情報メディア系の助教で、医療人類学の視点で、発達障害やギャンブル依存について研究されております。照山先生の業績は、

<https://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000003642>

先生の、最新の研究課題については、右欄をご覧下さい。  
(大谷編集委員)

## ネット依存対策を先行取組のギャンブル依存対策から学ぶ

照山先生の研究から2019年度から4か年で、「ギャンブル依存症対策を足掛かりとしたネットゲーム依存症対策に関する研究」という題目で科学研究費を獲得し、質的調査研究をおこなっています。インターネットを介して遊ぶゲームは、スマートフォンなどの情報端末の普及によって、多くの子どもにとって身近なものとなっています。しかし、「のめりこみ」とも呼ばれる依存的な遊び方も問題視されており、今年 WHO が定める国際疾病分類 (ICD) の第11回改訂版で「ゲーム障害」が盛り込まれたことがニュースにもなりました。

こうした状況に対し、どのように介入・支援をしていったら良いのでしょうか。ギャンブル依存は、ネットゲーム依存と多くの共通点があるとされており、パチンコ産業等の業界主導による先進的な依存症対策の先例があるため、そういったところから学べることも多いのではないかと考えています。

養成協議会の皆様とはぜひ今後さまざまな形で親交を深めさせていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(照山絢子記 9.19)

## 『スマホ・ネットの長時間接触による健康被害の実際と対策』テキスト初版完成！

テキスト「刊行に寄せて」に、中島匡博先生と田澤雄作先生のメッセージが掲載されました。中島先生推薦文を紹介します。

スマートフォンやゲーム機等インターネットにつながる電子メディア(以下、メディア)は、子どもの生活や遊びの中に急速に浸透し、メディア接触の低年齢化が顕著となっています。メディア長時間接触による、睡眠・視機能・体力等生活リズムや心身への影響、また、学力との関連が指摘され、近年、思春期世代の依存の問題が世界的に注目されています。

本書は、最新のエビデンスに基づいた、メディアの子どもへの影響について詳細に解り易く示されています。更に、家庭・保育所・学校・医療現場等で、子どものメディアとの関り方について対応や予防等の啓発を行う上で、重要なポイントが鏤められています。子どもに関する多くの人が、ネット社会での子どもの育ちについて、理解を深めることが期待されています。

中島匡博(日本小児科医会「子どもとメディア委員会」委員長・中島こどもクリニック院長)